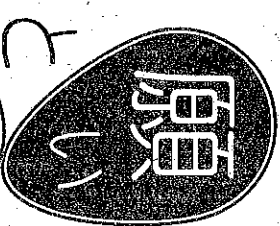


東日本大震災被災動物の碑と地蔵

茨城県土浦市



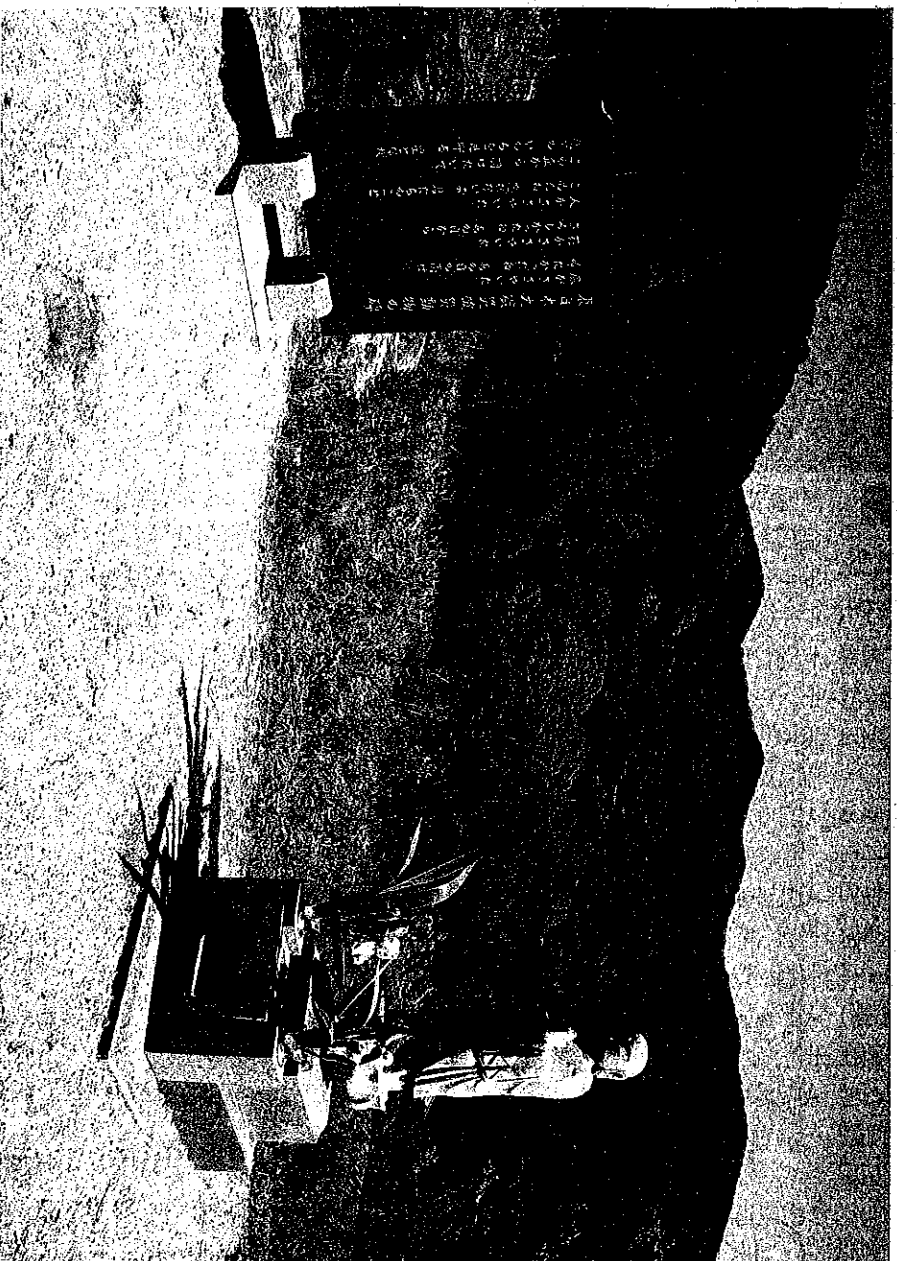
エッセイ

写真と文
藤田 観龍

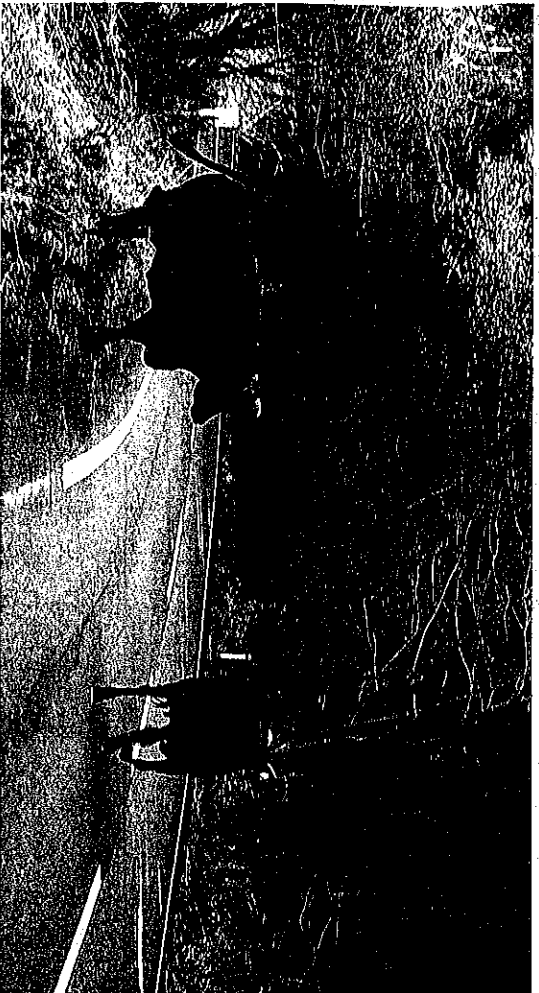
東日本大震災で東京電力の福島第1原発の爆発事故では、多くの家庭で飼われていた犬や猫などが、ペット動物、乳牛や肉牛、豚や鶏などの家畜も被る。被災前の飼育が困難になり、飢えて死んだり、屠殺したりするなどの問題で生きた動物の殺処分

君たちのこと忘れたい

日本では災害などで動物の同伴避難ができたために放置状態になり、原発事故では放射能からの住民の緊急避難で震災前に飼われていた犬や猫が、肉牛は348頭(297戸)、牛や豚が含む山野を徘徊し、野生化した猪隊も見られ、農は4万羽が全滅している。NPO法人動物愛護を考える茨城県民ネットウ・CAP1Nシエル



東日本大震災被災動物の碑(左)の裏には「今度生まれにくるときは原発と殺処分機のない時代」と記され、犬と猫が星空を見つめるレリーフが彫られている



放射線量の高い福島第1原発事故の被災地、福島県富岡町で道路を徘徊する牛(今年4月撮影)

ター(鶴田真子美理事)では2012年9月3・11の震災・津波と福島原発事故で警戒区域に残された死んでいた動物たちの「東日本大震災被災動物の碑」と名地蔵さんを中心とする動物愛護者の寄付で筑波山麓に建立した。

土浦市内の家家の豚舎を利用して、福島原発の警戒区域などで保護された犬や猫などを救済された。NPO法人動物愛護を考える茨城県民ネットウ・CAP1Nシエル

理事長の鶴田さんは「生き物、動物の殺しはできません。自ら避難できない動物は、人がめシエルを設置しました。人生動物が共存できない原子力発電所の新稼働や新設は認められない」と語る。

今回の震災では原発被災区域に避難犬が800匹、無登録を含めると1万8千匹を超え、猫は8千匹がいたのではと言われている。

被災動物の感震碑には「風がさよいた冷たかつたね あの日は花がさよいた さみしかったね あの日から人がさよいた ごめんね 寂れないよ 君たちこの丘から羽ばたいて 戀のいのちを見守る 星となれ」の言葉が刻まれている。

深刻な話を耳にすると、交えてぎらりと抽いた小豆が、肉と死別しているのが、珍しいほど内省的な映画だ。



人生はヒギナリス

オクサアと恋人が交わす印象的な台詞がある。「あなたの喪失感」

「アメリカンブリー」私には癒やせないわ」とか「ネバギア」負担なのに、この関係を

「アーツ」が、米國映画の「やめよう」グリープとは誰かによって癒やされるケアではない。悲嘆を背負う私が、自ら引き受けたい、主体的なグリープ

「難病もの」といわれるような病者を救ったジャンルもあるが、主人公は最後まで前向きで、家族も献身的な姿に描かれているのが、米國人は、個人の悲しみや生きる間もなく「明日に向かってか」んばる」のよう。本作は、そんなマシヨナ米國映画の中で極めて異色だ。

38歳で結婚せず、不安心を孤独感を抱える主人シリエに出たシリエ公オクサアが、唯一の「彼のユン・マク」が肉親である父親が、同じく父親のクリ

撃つ。しかも余命宣告をエントア・マクも受けた父親は、勇気をエントア・マクもつけたら、突然「自分品が多いが、本作の素直はがないで、オクサアらしい運攻でオクサアアツトした。残された時、賞助演男優賞を受賞し間奏アとして全った。監督アク・ミル

を看取るが、大きな喪失(浄土宗大蓮寺住職・秋田光彦)感に襲われる……。